

『佐紀盾列古墳群と松林苑。超昇寺跡をめぐる』

歴史文化クラブ7月研修会

7月16日(火)10時に近鉄平城駅に集合、お天気は曇っているが蒸し暑い、暑さの中で23名の会員の出席を得た。川井代表より挨拶の後、歩いて5分の神功皇后陵へ行く。全長275mの大型前方後円墳である。神功皇后は第14代仲哀天皇の妃で三韓征伐に遠征したと言われてきたが、近年では実在が疑問視されている。



次に10分ほど歩くと第13代成務天皇陵に到着する。ここは日葉酢媛命陵(11代垂仁天皇の皇后)、第48代称徳天皇陵(聖武天皇の娘)と接しており称徳陵以外は古墳時代前期後半(4世紀後半)の前方後円墳である。いずれも神話時代の人物だが、不思議と女性が多いのは何故だろうか?やはり実家の勢力圏に巨大な墓を作ったのだろうか。岩本先生から古墳や被葬者の話を聞きながら古代の世界を想像するのは楽しい。坂東さんから古墳の変遷の説明を聞く。弥生時代後期になると方墳や四隅突出墳が出現し、古墳時代前期の前方後円墳につながっていく。6世紀になると五条野丸山古墳を最後に前方後円墳は見られなくなり、天皇陵は八角墳に変わっていく。8世紀の奈良時代になると天皇陵も円丘になってしまうのである。塩塚古墳では古墳を削って平城宮北に設けられた松林苑の一部にした痕が残っている。

岩本先生の説明によると超昇寺は平城天皇の皇子高丘親王ゆかりの寺であったが戦国末期に戦火により焼失した。江戸時代元禄年間に同地出身の護持院隆光大僧正により復興されたが明治に廃絶した。5月法隆寺に行った時、元禄時代に綱吉生母桂昌院による多額の寄進があり、桂昌院は法隆寺の恩人との説明をしたが、本当の恩人は桂昌院や柳沢吉保に強い影響力を持っていた隆光だということがわかった。

隆光は東大寺の大仏殿の再建にも公慶上人を助け大きな役割を果たした。まことに大和の寺社の復興に尽力した功績は特筆に値する。比して墓は自然石の粗末なもので横に碑文が立っているのが印象的であった。



最後は平城天皇陵である、平城宮の北に隣接しており、平城宮建設の時に方部が壊された。

元は前方後円墳であったという。しかし、奈良時代とはいえ古墳は古代の大王の墓として尊重されていたはずであり、51代平城天皇の墓とされているのが不思議である。江戸時代に定めた御陵をかたくなに変えようとはしない宮内庁の姿勢にも疑問が残る。平城宮跡に着く、資料館で昼食を取る予定であったが、休日の後で閉館していた。仕方なく外で昼食を取り解散となった。



川井代表から次回への反省として、真夏はエアコンのきいた涼しい資料館での研修会にすべきかなあとのお話があった。皆様お疲れ様でした。

(杉本 登)